

秋田大学 正 員 清水浩志郎
秋田大学 学生員 本木 正直
秋田大学 学生員 ○ 林 達夫

1. はじめに

人口20～40万の地方中小都市における各交通需要をみると、自家用車の急激な普及や、汽車、バスのいわゆるマストラの郊外部での末整備などの理由から、マイカーの利用が増大し、マストラへの依存は減少傾向にある。このことは、現在の道路整備状況をみると、交通混雑、交通事故の増加等の交通環境が悪化する一方、マストラの存続から考えると、運賃の引き上げによる経済環境の悪化が余儀なくされるなど、市民の社会生活に支障を来すことが予測される。そこで、将来の交通計画を考える上で、各交通機関相互の有機的連関をはかるために、マイカー利用の規制、早急的な道路政策、マストラの需要拡大等の対策が重要となる。

しかしながら、地方中小都市のマストラは、それまでの主たる利用者層であった主婦のミニバイクへの、また高令者の自動車への転換が急速に進んでいる。そこで、今後マストラの需要拡大を図るための一方法として、高校生の通学交通を考えることが重要となる。ところで、高校生の通学交通手段は徒歩、自転車を中心である。それは、非行防止等の問題からバイク通学の禁止、自動車も年令的なことから通学交通手段に利用されないからである。すなわち、高校生の通学交通手段は、徒歩、自転車あるいはマストラに限られ、その他利用費用負担など、高令者層とは別の諸点において、交通弱者(*trans-potation poor*)といえる。高校生の通学交通の特徴は、トリップ長が通勤と比較して短いこと、トリップが他地域からいくつかの特定の点(学校)に集中することである。このような観点から、今後の都市交通システムにおいてマストラの機能を考える上で、高校生が考えられよう。このことはすでに赤字ローカル線における高校生利用の高いことでも証明されている。

本報告では、上述の認識に基づき、昭和59年1月、秋田市交通局で実施した市内10高校(図-1)の生徒に対するアンケート調査(有効サンプル数=3545票)より、現在の通学交通の実態を把握し、さらに非集計モデルを用いて通学交通手段選択の行動分析

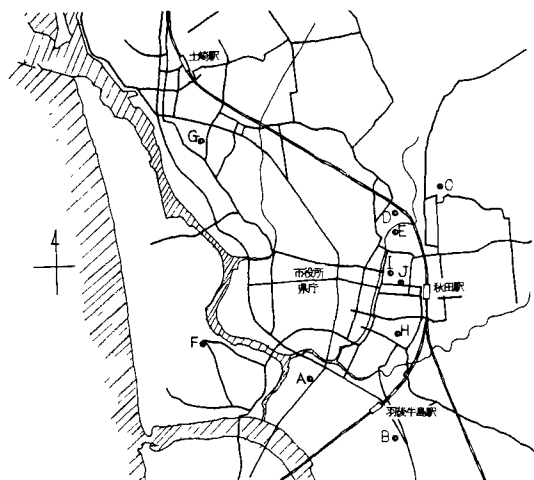


図-1 高校分布図

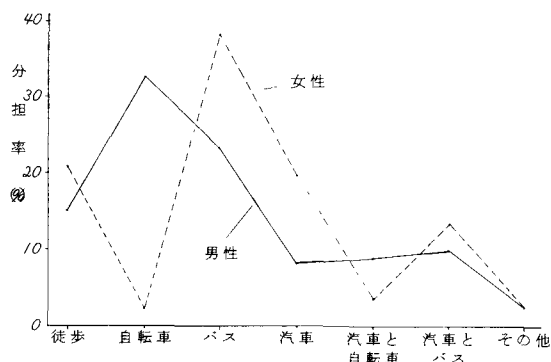


図-2 性別通学交通手段分担率

を試みたが、ここでは交通実態を中心に述べる。

2. 高校生の通学交通実態

男女別の通学交通手段を示したのが図-2である。男子では、冬期にもかかわらず自転車の割合が33%と高く、ついでバス23%、徒歩15%が続く。これに対して女子では、バスの利用者が36%と最も多く、徒歩、汽車が20%でつぐ。つまり、性別によって通学交通手段に差異が認められ、男子は徒歩、自転車を利用する傾向が強く、女子はマストラへの依存が高いといえる。

図-3に高校別の通学交通手段を示した。これ

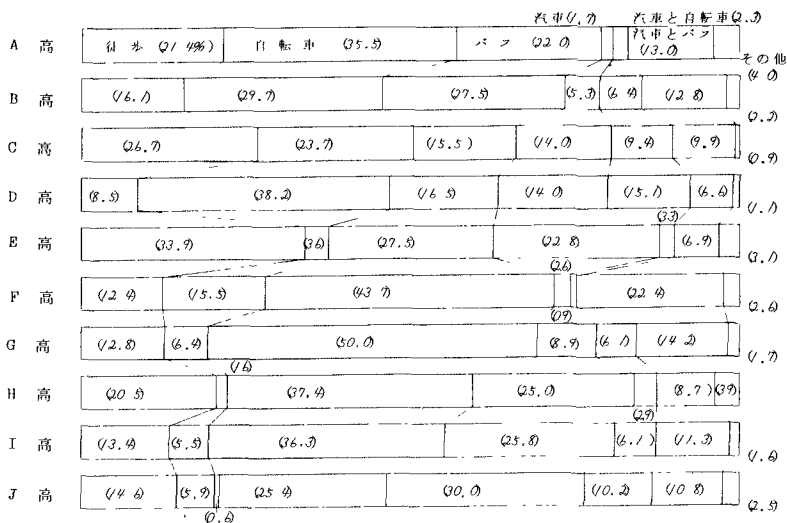


図-3 高校別通学交通手段

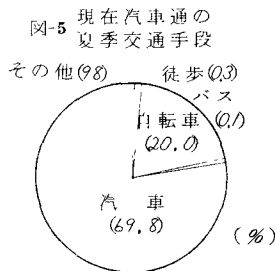
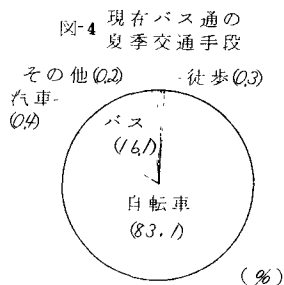


図-5 現在自動車通の夏季交通手段

らを高校分布図(図-1)と照らし合わせてみると、A高、F高は、羽後牛島駅を境にはほぼ等距離に位置し、通学交通手段では、徒歩・自転車車が約50%、バスが約25%、自動車とバスが13%と同様の構成を示している。C、D、E高は、秋田駅から北へ歩いて20~30分の所にある高校で、このうちC高とD高は、徒歩・自転車車が50%前後、バスが16%前後、自動車が14%である。E高は女子校であり、前述したように女子はマストラへの依存が高いことを考慮すると、C高、D高と同様の通学交通手段構成をしているといえる。F高とG高をみると、両校とも秋田市の中心地から離れており、とくにF高は最寄りの駅から距離がある。このために、バス、自動車とバスのバス利用の割合が65%と高い。H高、I高、J高は秋田駅から歩いて15分程度の所に位置し、自動車のみ利用している割合が他校に比べて高い。これらのことより、通学交通手段は学校の立地条件により共通点がみられ、通学交通手段選択と学校の立地条件は大きな相関関係にあるといえる。

次に、本調査が実施されたのは冬季であるため、夏季交通手段がどの程度変化するかを示したのが図-4、5である。冬期間バスを利用していた生徒の83%は自転車へ転換し、転換しないとの回答は16%にすぎない。また、冬期間自動車を利用している生徒のうち夏季も自動車を利用するのは70%で、20%が自転車へ転換すると回答している。

最近、通学にタクシーの合い乗りを利用する傾向がみられ、これをふだんの通学交通手段別にみるとバス、徒歩、自転車及びその他の利用者では90%以

	あ	る	な	い	計
徒歩自転車	159	6.7	2202	93.3	2361
バスその他	362	31.8	778	68.2	1140
自動車通					

表-1 通学交通手段としてのタクシー利用の有無

	~120 円以内	130~ 160円	170~ 200円	210~ 300円	300円 以上	計
自動車通	45 (12.5)	102 (28.3)	123 (34.1)	78 (21.6)	13 (3.6)	361 (100)

表-2 自動車通学者のタクシー利用料金(1人あたり)

天候が 悪かった から	友人が そろった から	速くて 快適だ から	安くつ くから	その他
68.9%	6.4%	8.3%	1.1%	15.3%

表-3 自動車通学者のタクシー利用理由

上が利用したことはないと答えているのに対し、自動車の利用者のうち32%が利用することがあると回答している。(表-1) さらにタクシーの合い乗りを利用した理由で、悪天候であったことを最も多くあげていることから、自動車利用のエグレス手段としてふだん徒歩、自転車を利用している生徒が合い乗りを行っていると思われ、割り勘によりバスと同程度の出費でバスより早く快適に学校に到着することから今後も増加が予想される。(表-2、3)

以上、高校生の通学交通手段について述べてきたが、さらに詳しいことは講演発表時に報告する。

なお本報告は、秋田市交通局による調査結果を利用したものである。同局に対し深く感謝の意を表す。